

POINT 2

- 各工程のテーブルには、作業の目標数となるマグネットを置きました。
- 手順を終えるとマグネットを移動します。

マグネットの数を見て、見通しをもって作業に取り組めます。

マグネット



POINT 3

- ホワイトボードに「全体目標」と各工程の進捗状況を提示しました。

各工程の進捗状況

・Point 2のマグネットが全て終わると報告します。

・ホワイトボードの「まぜる①」のカードを裏返し、「おわり」にします。



全体の動きや作業の進行状況を生徒が自分で確認し、目標を意識できます。

全てが「おわり」になれば目標達成です。

これまで、「これでいいのかな…」と不安でしたが、現在は時間を計って作業をしているので、自信をもって先生に報告が出来るようになりました。



4 授業者がわかったこと

- タイマーを活用することで、仕上がりを自分で判断出来るようになり、その都度報告する必要がなくなりました。
- ホワイトボードは、必要な情報のみを提示することで生徒も注目しやすくなり、自分で見て判断することができるようになりました。
- 目標に向けて作業を進められるようになり、作業効率が上がりました。



安全に一人で作業が出来る補助具の工夫 改善事例4

<ハンドワーク班>

1 授業改善の視点



【Dさん】

担当している仕事はしっかりと出来るようになりました。
他の仕事もやってみたいけど難しいのかな・・・。



- もっている力を発揮して、別の工程を担当することで、自信につなげていきたいです。
- アイロンを担当した場合、安全に一人で作業が出来るようになるためには、どのような点に注意していけばよいのでしょうか。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 工程を細分化して、生徒が「危ない」と感じる工程を把握し、安全に作業を行うための補助具を工夫しましょう。
- 手順の中で、生徒が分かるように「安全確認のポイント」を示すようにしましょう。
- 手順書がなくても仕事が出来ることが目標ではありません。安全・正確に作業を行うためにも、生徒の理解度に合わせた手順書を準備しましょう。

※教員の関わり方

- 手順を理解して安全に作業が出来るようになったら、教員の立つ位置などを見直し、生徒が一人で作業が出来るようにしましょう。そのことで、さらに生徒の自信につながると思います。

3 改善のポイント

POINT 1

- 右手がアイロンに触れることが無いように、「手形」のガイドを作成しました。
- アイロンがけの「終わり」が分かるように、タイマーを使って時間を計るようになりました。



POINT 2

- Dさんの動作に合わせた手順表を作成し、自分で確認しながら作業出来るようになりました。
- 作業台の物品の配置を決め、一定の手順で行えるようになりました。



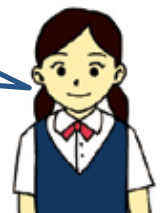
Dさんのアイロン工程

- 1 材料をアイロン台に広げる。
- 2 当て布を上にかぶせる。
- 3 右手でタイマーのスイッチを押す。
- 4 左手でアイロンを持ち上げる。
- 5 右手を手形に合わせる。
- 6 左手でアイロンをかける。
- 7 タイマーが鳴ったらアイロンを戻す。
- 8 出来上がりのカゴに入れる。

⇒完成



タイマーを押して、手形に合わせてなど、手順が分かりやすいので、一人で出来るようになりました。家でもこの方法でお手伝い出来るようになりました。



4 授業者がわかったこと

- これまで、「Dさんには危ないのではないか」と思っていたのですが、工程を見直し、必要な補助具を準備したことで、安全に一人で出来るようになりました。
- 手順書に、作業中の姿勢に関する内容を入れたことで、生徒がより安全に取り組めるようになりました。
- 今では手順を覚えて作業効率も上がり、自信をもって作業に取り組めるようになりました。



正確に一人で作業ができる補助具の工夫 改善事例5

<ハンドワーク班>

1 授業改善の視点



【Eさん】

下書きの線に沿って布を切り出す仕事をしています。
まっすぐに切るのは難しく、時間もかかってしまいます。



曲がってしまった不良品



- 一般的な道具を使用する場合、生徒によっては扱いが難しく、不良品が多く出てしまいます。不良品が出ることでやり直しが多くなり、生徒の意欲も低下しているように感じます。
- 自分が使用する物品を揃える際に時間がかかってしまうなど、全体的に作業効率が上がりません。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 布を切る道具を見直してみましょう。「ロータリーカッター」というものがありますので、使ってみましょう。
- ガイドに沿って切ると不良品が減ると思います。補助具を工夫しましょう。
- 各工程で必要なものをまとめておくと、生徒が一人で準備・片付けができるようになります。
- 物品の管理方法や配置を見直し、「安全」に作業が行えるように環境を整えましょう。
- 刃物や針を使用しますので、作業前と作業終了後に生徒自身で本数を確認出来るようにし、物品管理や安全への意識を高めましょう。